

日本家族社会学会ニュースレター

No. 32 2004. 6. 14. 編集・発行 日本家族社会学会事務局
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学部社会学・山田昌弘研究室
電話：042-329-7422 FAX：042-329-7429

NEWSLETTER

日本家族社会学会第14回大会

第14回大会のご案内

日本家族社会学会第14回大会実行委員会
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部社会学研究室
委員長 清水 浩昭

2004年度第14回大会は、日本大学文理学部で開催されます。多数の会員の参加を期待しております。

1. 日程 2004年9月11日(土)、12日(日)

2. 会場 日本大学文理学部

京王線下高井戸・桜上水駅より徒歩10分

3. 参加費 4000円

参加費は、当日支払い方式とさせていただきます。弁当につきましては、後日送付いたします葉書にて注文を取りたいと考えております。

4. 懇親会 4000円

懇親会は、学内の施設で行いたいと思っております。参加費は、例年より高くなっておりますが、多数ご参加くださいますよう、お願いいたします。

5. 宿泊

特に斡旋は致しませんが、新宿駅周辺のホテルを紹介しておきます。

京王プラザホテル 03-3344-0111

新宿駅(JR中央線ほか・小田急線・京王線・丸の内線)から徒歩5分

新宿ニューシティホテル 03-3375-6511

新宿駅(JR中央線ほか・小田急線・京王線・丸の内線)から徒歩14分

ホテルサンルート東京 03-3375-3211

新宿駅(JR中央線ほか・小田急線・京王線・丸の内線)から徒歩3分

新宿ワシントンホテル 03-3343-3111

新宿駅（JR中央線ほか・小田急線・京王線・丸の内線）から徒歩8分
ホテルセンチュリーハイアット 03-3349-0111

新宿駅（JR中央線ほか・小田急線・京王線・丸の内線）から徒歩3分

6. 発表に用いる機器

こちらで用意できるのは、OHPとスクリーン（2教室のみ）です。OHPの使用については、申し込み時に、必ずその旨記載してください。パワーポイント、スライド、その他の機器（各自持ち込み）の使用については、必ず大会事務局と相談の上、ご自分の責任で調整して頂くことになります。

7. 発表・報告者配布のレジメ

レジメについては、発表・報告者の責任で必要部数ご用意ください。部数が足らなかった場合、大会会場校で用意することは致しません。ご了承ください。

8. お問い合わせ

大会についての事前の問い合わせは、日本大学文理学部中尾暢見助手までメールでお願いします。

メール・アドレス nakao@chs.nihon-u.ac.jp

研究活動委員会からのお知らせ

今年度の大会（第14回大会）にむけて研究活動委員会では着々と準備をすすめています。その進捗状況と関連するお願いならびにシンポジウムについて、すでにお知らせ済みのデータベース分類コード表の改定版と合わせて、お知らせいたします。なお、大会プログラムについては8月上旬に全会員あてご送付いたします。

(1) データベース分類コード表の改定について

すでにお知らせしましたように、去る3月27日の理事会においてデータベース分類コード表の部分的な修正が決定されました。同封の一覧表をご覧ください。修正の内容は旧データベース委員会と編集委員会から提起されたもので、研究活動委員会では旧データベース委員会の機能を吸収すると共に修正作業をお引き受けし、慎重に検討した結果、提案された内容をほとんど修正せずにコード番号の扱いについて既存のコード表に支障のないように日本社会学会のデータベース委員会ともご相談させていただいて、新しい修正版を検討してみました。今後は、名簿作成をはじめデータベース化作業に活用されることを期待します。

(2) 自由報告の受付状況について

ところで、今年度の自由報告の受け付けは締め切りました。やや例年よりも申し込みの数が多くないようですが、それでも大会が成立するには適当な申し込み数になりました。申し込まれた方がたには全員に受け付けた旨をすでに連絡させていただきました。もし申し込まれた方で、まだ当方から何も連絡を受けていない方は、大至急その旨を までお申し出ください。

(3) テーマセッション申し込みの受け付け延期について

テーマセッションの申し込みも複数ありましたが、例年に比べてやや低調です。この際、ぜひ申し

込みたい方については、報告者や司会者の段取りについてすべて責任を持って当たっていただくことを前提にして、6月25日までにお申し込み(エントリー)ください。申し込みは、学会のホームページからお願いします。(申し込み締め切り日を厳守してください。)

(4) シンポジウムについて

ご存知のように一昨年来、3年間にわたっての共通テーマとして「現代社会における家族および結婚の意味(存在理由)について問う」とし、うテーマを掲げてきています。本年度は、その最終年度にあたります。報告者4名の先生方は、別に報告のM席ではありませんが、まず第一に、船橋恵子会員に「産育からみた現代家族の存在意義について」、第二に、笹谷春美会員に「高齢者介護からみた現代家族の梅主義義について」、第三に、清水新二会員に「家族問題・家族福祉からみた現代家族の存在意義について」、そして第四に、山田昌弘会員に「近代家族の終焉とポスト近代家族からみた現代家族の存在意義について」、それぞれご報告をいただくことになってし、ます。正式には各報告者は個別のタイトルのもとにご報告をいただくことになると思います。司会者としては、熊谷苑子会員と企画代表者である野々山が当たることになりました。ただ今、インターネット上で登壇者間で打ち合わせを行なっているところであります。

本年度も、白熱した議論が展開する魅力的なシンポジウムになればと準備中であります。大いに期待してご参加くださいますようにご案内いたします。(野々山久也・甲南大学)

理事会報告

媽 攀 礪燻佗 20090908 11:00 145(wCC:AG(A(wCAA(w@fCA(L(w#~5(wjP8(wj4-5(wj435(wj4p5(wjPC8(wj4 5(wjPM spg 26 呷 退 佗 市9 最 戀綴言賢 佗 諛 最 鉅市瓊 鉅賢部 踏 謀最呷紀 耀 黎

編集委員会

編集委員会の任期も本年9月の理事改選と共に終了します。本編集委員会からのニュースもこれが最後となります。3年間の編集業務で至らぬ点が多々あったとは思いますが、会員諸氏の、またとりわけ査読委員の先生方のご協力によってなんとか大過なく任期を全うできることを感謝しています。査読委員の先生方は多忙にもかかわらず真摯に査読作業に力を入れていただき、その結果投稿論文のレベルが確実にアップしていく過程を見届けることは、編集作業の大変さにもかかわらず楽しい体験でした。3年間の編集委員会業務を通して見えてきた課題もあります。これらについては次期編集委員会の方々に確実に引き継いでいただくよう努力したいと思っています。

さて、本号では二つの事柄について記してみたいと思います。一つは最近編集委員会が処理した「未発表論文」問題、そして二つには編集委員会が現在直面するいくつかの課題についてです。

15巻2号に掲載された一つの論文には末尾に謝辞が付され、その中に「前稿の翻訳」という文言が記されていました。このことについて会員から投稿規定との関係で疑問が呈されました。編集委員会で最大限の努力を持って照会調査したところ、結果的には投稿規定にある「未発表論文」条項(投稿規定第2項)に抵触しないことを確認したところです。

近頃は院生会員の研究環境も競争的になり、学位論文審査条件にも査読付き論文X本といったことが取りざたされる時代です。いきおい当誌にも投稿論文のラッシュが押し寄せ、この傾向が定着していきました。このような状況下では、ついつい他誌との掛け持ち投稿、既発表論稿の焼き直しの論文が投稿されるという事態も想定されます。そこで編集委員会では第15巻2号より投稿規定に、投稿時に関連論文のコピーも併せて送付することを求める新規定を追加したところです。もとより意欲旺盛な若い研究時代は、往々に次々とアイデアが湧き、1年で3本、4本もの論文をものにするということも珍しくありません。また是非そうした活発な研究活動を展開していただくことを期待するものです。ただその際、他誌との掛け持ち投稿、既発表論稿の焼き直し論文だけにはくれぐれも気をつけて下さい。

二つ目の点は、編集委員会が直面している現在の課題です。それらの内から(1)国際化への対応、(2)規定枚数オーバー問題、(3)未発表論文問題、の三つについて簡単に説明させていただきます。

国際化への対応は学会全体が直面する課題でもあります。編集委員会関係では具体的に欧文論文(実質的には英語論文)の掲載努力という形で現れています。直接的には日本学術振興会による学術雑誌刊行助成との関連で生じている課題で、雑誌の年間総頁数の一定比率を欧文論文が占めていることを重視するものです。しかし間接的には日本家族社会学会の国際化重視方針(歴代の会長講演)を脇から固め推進する役割の一端を担うものです。幸いにも16巻2号には本誌としては初めての欧文論文が、米国カルフォルニア大学の石井クンツ昌子先生のご協力で掲載することができました。

最近の投稿論文の多くが規定枚数をオーバーしています。編集委員会としてはことある毎に注意を促してきたつもりですが、現在のところその効果ははかばかしくはありません。ルール違反であるばかりか、文字数削減という制約が最初から課せられているためせつかくの査読の労も結局は水泡と化す場合があります。つまり文字数削減を図りながら査読コメントに対応した書き直しをすることは至難の業であるばかりか、仮にそれができた場合でも投稿時の論旨とは大いに異なってしまうことがあ

り、これはこれでは査読作業の意味を損ないかねません。さらに2年に1度の学会奨励賞審査において、文字数オーバー論文が有利な条件で審査されると言うアンフェアな状況がもたらされます。

編集委員会でも規定枚数増量を検討したことがありますが、それは直接コストにはね返るわけで会費の値上げなどを伴わない妙案はなく、現在規定枚数増量案は事実上凍結状態にあります。仕方なく、編集委員会としては投稿にあたっては規定枚数を遵守することを極力会員にアピールするしかないのが現状です。あまりのオーバーが目立つ投稿論文は、結局査読の労を無にするだけで、そうであれば最初から受付拒否をしたらどうかという意見さえ出ています。会員各位にあつては投稿に当たってこのあたりの事情をよく理解した上で、規定枚数遵守をお願いいたします。

最後に未発表論文問題ですが、これは既に上でも若干触れたとおりですので、周知を徹底するために、投稿規定新設第6項を再度確認しておくだけにします。「当該投稿論文と関連した、あるいは重複のあるテーマで書かれたり、同一データを用いて書かれた既発表論文、もしくは投稿中の論文がある場合は、そのすべてにつきコピー各4部を原稿送付時に添付して下さい。」

改めて会員諸氏のご理解とご協力に感謝しつつ、任期の最後までを務めたいと思います。

(清水新二・奈良女子大学)

全国家族調査特別委員会

全国家族調査特別委員会

(1) NFRJ 98 データを用いた最終刊行物『現代家族の構造と変容』(渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編)が2004年1月に東京大学出版会から出版されました。総頁463の大著で、28名の会員が寄稿しています。廉価とはいえませんが、多くの方にご購読いただけることを期待しています。また、9月の大会では同書の書評セッションを開く予定です。

(2) 上記『現代家族の構造と変容』への寄稿などのため、本委員会が配布したNFRJ98データの利用許可期間が去る3月末で切れました。該当会員には、先日、委員会事務局からデータ消去方の依頼状が届いたと思いますが、すみやかに消去の上、その旨をご報告ください。今後、NFRJ 98 データをご利用いただく場合には、東大SSJに利用申請をしていただくことになります。SSJが利用を許可する期間は1年間で、それを過ぎる場合には再度の申請が必要です。

なお、SSJが公開対象外としている民間企業・研究機関に所属する会員で、データ利用を希望する場合は、本委員会事務局にご連絡くだされば、1年単位で利用できるようにいたします。同じくSSJが公開対象外としている学部学生が、卒業論文作成のためなどで同データを利用したいと希望する場合も、指導教員である会員が本委員会事務局にご連絡ください。その教員の責任において、学部学生も利用できるようにしたいと考えています。

全国家族調査委員会事務局(早大嶋崎研究室)

(3) NFRJ-S01 (全国調査「戦後日本の家族の歩み」)の個票データを、2003年9月より会員に公開し、目下、30数名の会員が当該データを分析中です。その成果は、9月学会大会頃に第2次報告書として出版する予定でしたが、「経歴データ」変数の作成・配布が当初の予定より遅れていることもあり、報告書出版も若干遅延するかもしれません。

(4) 第2回全国家族調査(「子育てと家族関係に関する全国調査」を含む)を、去る1月10日から2月15日の期間で実施しました。現在、委託した調査会社でのクリーニング作業が進行中です。実施計画の概要は、前号『ニュースレター』でお知らせしましたが、実際の実施概要については、大会時になんらかの方法でお知らせしたいと思っています。

本調査結果の報告書は、主として研究費交付元への提出義務を遂行すべく、05年3月末までに作成します(第1次報告書、2種)。次いで06年3月末までに、NFRJ03データ、あるいは98データと03データ双方に分析を加えた論文集に相当する第2次報告書(NFRJ98を用いた報告書No. 2-1~2-7参照)をまとめたいと計画しています。

(5) 上記調査データはNFRJ03データとして、いずれは一般公開されます。しかしデータを一般公開するまでには、さらなるクリーニングを含めて、ある程度の作業が必要です。こうした作業にご参加いただける会員には、9月大会時頃までに03データを配布いたします。その場合、データを用いた学会報告・論文執筆もできますが、その公表時期は第1次報告書刊行後になるようご配慮ください。この件につき有志会員は、6月末までに澤口恵一会員(03実行委員会委員)へお申し出ください。

メール・アドレス：

(6) 第1次報告書刊行後、学会員を対象に03データを公開します。この時点から03データを利用される会員には、これを用いた論文を第2次報告書に掲載させていただきます(再録可)。学会内公開データの利用に関する具体的な手順などについては、後日お知らせします。

(7) これまでも繰り返しお願いしたことですが、すでに一般公開されているデータ(NFRJ98、98夫婦関係予備調査)、および、目下は学会内公開データ(NFRJ-S01)を用いた研究成果は、論文の場合は抜刷りもしくはコピーを、また学会報告の場合はレジュメを、いずれも2部、委員会事務局に送ってください。

(藤見純子・大正大学)

事務局からのお知らせ

『家族社会学研究』の在庫処理セールが実施されます。今期大会会場において廉価販売する予定です。途中入会の方など、過去のバックナンバーを入手するチャンスです。

今後は、原則として、大量の在庫を抱えずに順次処分していく方向ですので、この機会をお見逃しなきようお願い申し上げます。

* 先日、名簿確認表をお送りした際、分野コードの一部変更についてのお知らせを忘れておりました。関係方面にお詫び申し上げます。会員のみなさまにおかれましては、同封の新分類コードに従って名簿を確認していただくよう、お願い申し上げます。 (山田昌弘・東京学芸大学)

会員異動

編集後記

発行が予定より遅れましたが、ようやくニュースレターをお届けすることができました。すべて会員には大切な情報です。大会案内はじめ、各委員会の報告を熟読ください。また、会員歴の短い会員には事務局からのお知らせも魅力的と思います。9月に東京は日本大学でお会いしましょう。なお、今回は水野宏美会員にニュースレター作成を手伝っていただきました。

(ニュース担当：渡辺秀樹)